

らしっく

自分らしく、粋な暮らし

2004.8
夕涼号
Vol.8



らしっくは、自分らしく、
粋な暮らしを目指す人たちを
応援する情報誌です。

広島市まちづくり市民交流プラザ情報誌

ドドジとっくへ

「かなでる」

広島から世界へ発信する
アニメーション芸術の祭典

ひろしまぐるっと八区 NEW

(南区) 探検しよう! 宇品山

(安佐北区) 久地北・太田川げんき村

まちづくり学校 NEW

Hi通信 NEW

らしっく

広島市まちづくり市民交流プラザ情報誌

「らしっく」は、自分らしくの“らしく”と
粋(な)という意味の“シック(chic)”
を合わせた造語です。

2004.8
夕涼号
Vol.8



タイトルの「夕涼号」は、
爽やかな風の吹く夏の夕暮れ時のような
心地よい時間をお届けする
らしっくでありたいとの思いを込めています

- 2 ビビッとらしくに
広島から世界へ発信するアニメーション芸術の祭典
- 6 ひろしまぐるっと八区 NEW
(南区) 探検しよう! 宇品山
(安佐北区) 久地北・太田川げんき村
- 8 よりみちデポ
二葉公民館(東区)
- 10 おもしろPレポート
ひろしま元気づくりカンパニー
ひろしまの会社の
- 12 おもしろPスポット
こだわりのミュージアムPART2
- 13 らしっくCafé
社会を変える小さな一歩
- 14 Hキャンパス
日本文学の楽しみ方、教えます!
- 16 達人図鑑
気象予報士 井上貞さん
野外活動家 角山肇さん
- 18 まちづくり学校 NEW
私たちのファシリテーター像を描こう!
- 20 Hm² 通信 NEW
第1回成果発表&第2回公開審査会
- 24 プラザ通信
- 26 らしっく情報の森
- 29 らしっく広場
てくてく特派員と行く
30 街道散歩
安佐北区口田ふるさとロマン探訪会

3年間学び、調理師免許も取得しました。その腕を生かして、釣った魚はその場でおろし、瀬戸内海の海水を20時間煮詰めて作った塩を使って料理をします。塩にはミネラルがたっぷり含まれ、甘味までも感じられます。自然の味を楽しみながら、生まれ育った土地で採れるものが体にもたらす恵みについて話を聞きました。そんな成末さんの宝物になつてるのは、「ATTABOY」の一日が楽しかったからと、ある子どもが心を込めて描いてくれた船の絵です。成末さんの今の目標は、「ベジタブル&フルーツマイスター」の資格を取ること。6月から毎週、神戸まで通い、さらにおいしい料理を作るため、野菜や果物の良さをより正確に伝えるために勉強に励んでいます。ますます人々の心と体を元気にすることに生きがいを感じます成末さんです。問い合わせ ☎090・1685・4293(成末さん)

「今まで自分を育ててくれた社会に、自分ができることで恩返しをしたい」という思いを、定年が近づくにつれて強く持つようになった成末晴一さん。勤めていた会社で地域清掃のボランティアはしていたものの何をすればいいか迷っていました。そんな時、国内外から訪れる知り合いが宮島の弥山から見る瀬戸内海の多島美に感動する姿を見て、広島島の素晴らしさを知ってもらおうと決意したそうです。そこで、大好きな海を楽しむために購入していたクルーザーと得意の料理を取り入れ、定年と同時に船上れすとらん「ATTABOY」を開店。船長、シェフ、島の説明と遊びをアドバイスするガイド役までを二挙にこなし、瀬戸内海をアピールし続けています。

島の案内と同時にストレスの多い現代人の癒やしの場にもなれば―成末さんはそのために、波の音をBGMに仲間同士で安らげる場をつくっています。「トム・ソーヤの冒険」のように無人島を探検したり、泳いだり、魚釣りをしたり……。「やりたいことを思いっきりしていたら、嫌なことまで忘れるでしょう。クルーザーの維持費が高いから、いつまで続けられるか分からないけど、みんなが楽しむ顔を見たい」と話します。



料理が作れる船長の成末さん。クルーザーを操縦しながら、「あれが宮島で、あれが柱島……」と島の説明もします



船の先端に座っていると、自分が海を走っているみたい!



ある子どもから贈られた
宝物の絵

無人島への上陸にはゴムボートを提供



体のことを考えた料理が並びます



一緒に乗った仲間たちと
楽しい料理作り



暮らしっく

Vol.5

自分らしく豊かに、でもちょっぴりこだわって……。ついでにまわりのみんなも巻き込んでゆつくりたづなり楽しんじゃおう!
暮らしっくでは、そんなふうに広島でスローライフを楽しんでいる人を紹介します。
今回は、クルーザーで船上レストランを開き、“癒やしの場”を提供している成末晴一さんです。



5月23日に横浜商店街事務所で行われた、国際選考委員との交流会の様子。



伊藤有彦「アニメーション」は映画の誕生以前からある、生命なき物に「魂(アニメ)」をあたえるという、もっとも創造的な魅力にあふれた表現です。このフェスティバルでは「人間の可能性」とその根底に流れる「人間の魅力」を改めて感じてほしい。今回、半月近く滞在をしてみても、大会を支える人たちがイキイキしていたことそして新緑の季節の中、毎日歩いた街がとても清潔だったことが印象に残りました。いい街だね！

PLOFILE／日本アニメーション協会理事。NHKBS1「デジタルスタジアム」キュレーター。クレイアニメーションNHK教育プチプチ・アニメ「ニャッキ」(97年文化庁メディア芸術祭、優秀賞受賞)、NECのCM「パズールでござール」などを手掛ける、アニメーションディレクター。

■国際選考委員の皆さんに広島国際アニメーションフェスティバル、そして広島の魅力をお伺いしました。

インタビュー



ビビッとアンテナを張り巡らせている人は、いつもvividに(イキイキと)生きています。そんな方々のchic(粋)な活動をご紹介しますこのコーナー。さあ、あなたもビビッと、しっくに暮らしてみませんか？



「かなでる」

今年の夏、広島はアニメーションの世界に染まります！ 世界で注目を浴びるアニメーションのイベントが、ここ広島で開催されます。アニメーションを通じて「LOVE&PEACE(愛と平和)」を世界各国・地域のアーティストと一緒にかなでていきませんか？

私は「ラッピー」故木下蓮三さんによる架空の動物で、第1回大会からのマスコットキャラクターだよ！ 大会のメインテーマ「ラブ&ピース」と「ハッピー」から名付けてもらいました。



「カンヌ映画祭」から独立したアニメーションの祭典 第10回 広島国際アニメーションフェスティバル

このフェスティバルは、世界各国・地域から応募されたアニメーション作品を審査、通過した優秀作品を一般公開形式で審査し、グランプリなどを決めるアニメーションの映画祭です。現在この大会は、アヌシー(フランス)、ザグレブ(ユーゴスラビア)、オタワ(カナダ)でも開催され、中でも広島大会が一番出品数が多く、プロのスカウトも訪れるなど注目度の高いものに育っています。

広島から世界へ発信する アニメーション芸術の祭典

20年前から2年に一度、世界各国の人々が集い注目するアニメーションの祭典が、広島で行われてきたことをご存知でしょうか？ その祭典「広島国際アニメーションフェスティバル」は今年で10回目という節目を迎えます。そして今年は新たに、広島の経済人たちが集う広島経済同友会が立ち上げたプロジェクト「広島アニメーションビエンナーレ2004」も同時期に開催されることになり、今年の広島夏の夏はアニメーション色になりそうです！ まずは、フェスティバルを支える関係者、経済界、そして市民の皆さんの熱い思いを知って、世界のアニメーション芸術を実際に体感しに行きましょう！！

「映像文化のメッカ」広島に！

「国際アニメーションフェスティバル」は、昭和35年(1960年)、国際アニメーション協会(ASIFA)が発足、同年、フランス「カンヌ映画祭」のアニメーション部門が独立し、同国アヌシー市で開催されたのが始まりです。

当初からアジア地域での開催を望む声が高く、当時ASIFA日本支部会長であったアニメーション作家の故木下蓮三さんが、被爆後復興を遂げてきた広島市民の心意気に共感し奔走されたことなどから、被爆40周年を記念して、昭和60年(1985年)、「第1回国際アニメーションフェスティバル広島大会」が実現。広島大会からも、世界で活躍するアニメーション作家を多く輩出しています。楽しみながらイベントに参加していくことで、今後、広島にアニメーション文化が根付き、さらに

イベント



子どもたちの力作
パラパラアニメーションの世界



国際アニメーションフェスティバルのプレイベントとして「パラパラアニメーションコンテスト」を開催。同コンテストを盛り上げようと、フ

ラワーフェスティバル会場やまちづくり市民交流プラザで「パラパラアニメーション教室」が開かれました。多くの親子連れが作品づくりにチャレンジし、個性豊かな作品が出来上がりました。中区の森涼香ちゃん(5)は、「おばあちゃんといろんな話をしながらお絵描きができて楽しかった」そうです。これら応募作品251点の中から国際選考委員によって選ばれた14作品がフェスティバル会場に展示され、動画になって上映されます。

事務局 森本 一由さん



パラパラアニメーションは特別な道具がなくても思いつくまにつくれる、アニメーションの原点のようなもの。子どもの発想には夢がたくさん詰まっています。この機会にぜひ子どもたちの創造力の世界に触れてみてください。

は地元からアニメーション作家が生まれればステキですね！

フェスティバルの舞台裏

今年は、世界59カ国から1,539本もの作品が寄せられました。フェスティバルに先立ち、5月に世界的に活躍する4人の国際選考委員が来広、広島市映像文化ライブラリーで15日間にわたり全作品の一次審査を行いました。1本の作品が4分としたら、毎日7時間以上も観賞しないといけない計算に……それを考えただけでもその審査の大変さがうかがえます。その結果選ばれた69の優秀作品が、8月19日から公開審査されます。



平成14年(2002年)に開催された第9回 国際アニメーションフェスティバルの会場

「映画セミナー」で アニメーション上映

アーティストにやさしいまちづくりを目指す横川では、三篠公民館と横川シネマが連携して「映画セミナー」を開催。

5月の第1回講座は、シンポジウムと、今年のアニメーションフェスティバルの国際選考委員を交えて、彼らの作品上映と舞台あいさつが行われました。国際選考委員との交流や市民がアニメーションに親しむ機会が少しずつ広がっています。



国際選考委員を迎えて交流

第10回
広島国際アニメーションフェスティバル
開催期間／8月19日(木)～23日(月)
会場／アステールプラザ(広島市中区加古町4-17)
問合せ／広島国際アニメーションフェスティバル事務局((財)広島市文化財団内)
☎082・245・0245
URL http://www.urban.ne.jp/home/hiroanim/
チケット取扱所／チケットぴあ、ローソン、広島市内の主なプレイガイド、各区民文化センター、アステールプラザ、映像文化ライブラリー、交通科学館、現代美術館



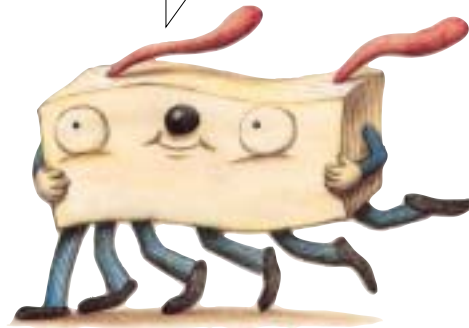
今年のフェスティバルのポスター。原画は「ロッチ 小梅」のデザインでも有名なイラストレーター、林静一さんによるもの

アニメーションで元気な広島を世界へアピール 「広島アニメーションビエンナーレ2004」

「広島からニッポンを元気に」との思いから経済界が立ち上がり、新しい地元発のイベント「広島アニメーションビエンナーレ2004」が産声をあげました。数年間にも及ぶ討論から生まれたアイデアが集結し、“日本が世界に誇るアニメーションを軸に広島の文化を掘り起こそう”と今年4月に基金を設立。たくさんの方の賛同企業が集まったことにより、市内の美術館や映画館などでアニメーションに関するさまざまなイベントを開催中。アニメーションを楽しみながら、一緒に広島の文化・経済を盛り上げていきたいと思います。

「広島からニッポンを元気に」との思いから経済界が立ち上がり、新しい地元発のイベント「広島アニメーションビエンナーレ2004」が産声をあげました。数年間にも及ぶ討論から生まれたアイデアが集結し、“日本が世界に誇るアニメーションを軸に広島の文化を掘り起こそう”と今年4月に基金を設立。たくさんの方の賛同企業が集まったことにより、市内の美術館や映画館などでアニメーションに関するさまざまなイベントを開催中。アニメーションを楽しみながら、一緒に広島の文化・経済を盛り上げていきたいと思います。

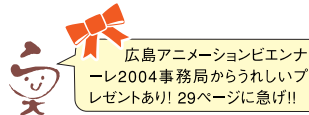
ボク、「Haby（ハビー）くん」！
アニメーションづくりに欠かせない“紙の束”と動きのある動物のイメージから生まれました。



Hiroshima Animation Biennale + 「Y（男性染色体）」
「Habyくん登場！」
広島アニメーションビエンナーレ2004イメージキャラクター「Habyくん」は、作品「頭山」が今年6月に、第16回ザグレブ国際アニメーション映画祭のグランドコンペティション部門の最高賞グランプリを受賞されたことでも知られる。アニメーション作家の山村浩二さんがデザインされました。山村さんは絵画を学ぶ学生だった20年前の第1回大会に夜行列車に乗って参加。目の前に第二線で活躍している人たちの作品に触れたことで触発され、アニメーション作家になることを決意。そして、第2回と同フェスティバルに出展、入選し、第9回では選考委員もされています。山村さんにとって広島は、「アニメーション作家としての心」の核であり、ものさし“であった”と言われます。まさに、広島の世界をアニメーションでつなぐ架け橋となる作家と言っても過言ではありません。



広島でのアニメーションの祭典についての思いを熱く語る山村さん



広島アニメーションビエンナーレ2004
開催期間／7月17日（土）～9月5日（日）
会場／広島市現代美術館、NTTクレドホール、アステールプラザ（※詳しくはホームページをご覧ください）
問合せ／広島アニメーションビエンナーレ2004実行委員会 事務局 ☎082・242・3583
URL <http://www.hiroshima-animation-biennale.jp/>
チケット取扱所／ローソン、電子チケットぴあ、JTB各支店、JR西日本（岡山・広島・山口・福岡エリア）の主な駅のみどりの窓口



事務局 小森 敏廣さん
東京や世界各国の人々の楽しみとして定着している広島国際アニメーションフェスティバルが、意外と地元広島人に定着していないのは本当にもったいない。26年前に感銘を受けた故木下蓮三さんの作品「ピカドン」のような、実写で表すことができないものも表現できるアニメーションのすごさをぜひ感じていただきたい。

このイベントに、一人でも多くの方に訪れてもらいたい。さらに、年齢や環境を越えて誰もが観に行く映画のように、アニメーションが、知的な娯楽へと認識されるようになればと願っています。



インタビュー

山村浩二さんは、「アニメ」と縮めて言わないで、正確に「アニメーション」という言い方にこだわっています。そんな山村さんに「アニメーション」に対するこだわりや魅力を語っていただきました。

誰かと共有して初めて喜びに変わる、それを伝えられる芸術・アニメーション

今、世界で日本のアニメーションの評価が高まっていますが、短編や芸術性の高いアニメーションはまだ日本では一般的ではありません。アニメーションは、子どもや一部の人のみならず、このイベントによって、そういった隔たりを埋めていけたらと考えています。

アニメーションは彫刻や絵画も取り込める表現のメディアとして幅が広いものです。特に短編のアニメーションは、短い時間で作家のメッセージやイメージ、さらには人間性をダイレクトに伝えられる芸術性の高いものです。普段なかなか見えない人間の本质までも触れることができる世界の短編アニメーションを、身近に体験できる貴重な

トピック

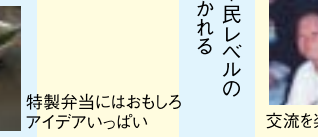
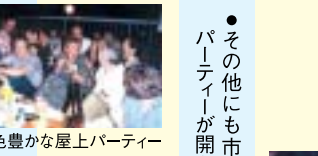
フェスティバル応援記

第10回 (2004)	第9回 (2002)	第8回 (2000)	第7回 (1998)	第6回 (1996)	第5回 (1994)	第4回 (1992)	第3回 (1990)	第2回 (1987)	第1回 (1985)
●第10回を記念して「ブレイクアップ」の特別プログラム満載！	●パラパラアニメーションコンテスト開始	●ミレニアムを記念して「観客賞」創設	●大会創始者の一人、木下蓮三氏を悼んで「木下蓮三賞」創設	●応募作品が千点を超える（第1回は451点）	●「一般劇場公開に先駆けて「ライオンキング」上映 ●フレーム・イン（自由空間） 誕生、ワナライブラリース社やデイズン社などが注目	●新しくできたアステールプラザで開催 ●「ピノキオ」の中のジミールの生みの親ウオード・キンボイル氏「ドナルドダック」のまねで大ウケ	●新しくてアステールプラザで開催 ●「ピノキオ」の中のジミールの生みの親ウオード・キンボイル氏「ドナルドダック」のまねで大ウケ	●「ピノキオ」の中のジミールの生みの親ウオード・キンボイル氏「ドナルドダック」のまねで大ウケ	●グランプリは手塚治虫の「おんぼろフィルム」 ●今はなき広島市公会堂が会場
●経済同友会、長年温めた企画「アニメーションビエンナーレ」開催 ●今年もやります！ 世界の作家たちとの大交流会	●ラッビー友の会、第二回市民賞に輝く ●ラッビー友の会がワフル企画「水上上映会」開催	●ラッビー友の会、第一回市民賞に輝く ●ラッビー友の会がワフル企画「水上上映会」開催	●ラッビー友の会、公式ボランティアとして活動。不動院で2回目のパーティー、夜中盆踊りでお騒がせ。宮島ハーベキュー、平和公園見学、天ぷら作り体験、座禅体験など「おもてなしツアー」開始 ●千田わつしよい祭などで作品上映、市民に作品を観る機会を提供	●三戸隆氏を悼んでの屋上パーティー最高参加者、約200人 ●「ラッビーニュース」毎日発行、大会の様子をアピール	●三戸隆氏を悼んでの屋上パーティー最高参加者、約200人 ●「ラッビーニュース」毎日発行、大会の様子をアピール	●三戸隆氏を悼んでの屋上パーティー最高参加者、約200人 ●「ラッビーニュース」毎日発行、大会の様子をアピール	●三戸隆氏を悼んでの屋上パーティー最高参加者、約200人 ●「ラッビーニュース」毎日発行、大会の様子をアピール	●三戸隆氏を悼んでの屋上パーティー最高参加者、約200人 ●「ラッビーニュース」毎日発行、大会の様子をアピール	●サポーター「ラッビー友の会」誕生。 三戸鉄工所の屋上で大会関係者を招いてパーティーが始まる
●粘土を使ってアニメーションづくりに挑戦できる「キッズクリップ」	●粘土を使ってアニメーションづくりに挑戦できる「キッズクリップ」	●粘土を使ってアニメーションづくりに挑戦できる「キッズクリップ」	●粘土を使ってアニメーションづくりに挑戦できる「キッズクリップ」	●粘土を使ってアニメーションづくりに挑戦できる「キッズクリップ」	●粘土を使ってアニメーションづくりに挑戦できる「キッズクリップ」	●粘土を使ってアニメーションづくりに挑戦できる「キッズクリップ」	●粘土を使ってアニメーションづくりに挑戦できる「キッズクリップ」	●粘土を使ってアニメーションづくりに挑戦できる「キッズクリップ」	●粘土を使ってアニメーションづくりに挑戦できる「キッズクリップ」

粘土を使ってアニメーションづくりに挑戦できる「キッズクリップ」



日本の心を伝える「座禅ツアー」は好評



特製弁当にはおもしろアイデアいっぱい



交流を楽しむ三戸隆さん

世界へつながる小さな交流

第1回から大会運営を裏から支え続けている市民グループ「ラッビー友の会」H I R O S H I M A。選考委員への手作りのお弁当や交流会など、大会を訪れる国内外の人たちが楽しめるようにと活動を行っています。

平成12年（2000年）に、公式ボランティアに認定された同会ですが、その始まりは、現会長である三戸清司さんの亡父・隆さんが、木下蓮三・小夜子夫妻を友人に紹介されたことから。木下夫妻の大会誘致に掛ける真剣な想いに触発され、隆さんは上東雲町内会育成部の仲間と共に、自社の鉄工所の屋上でパーティーを開催。これが交流会のスタートとなりました。

「被爆で何もかも失った広島の子供たち、世界に誇れる文化を生み出し、育てて発信していけるならば、傷も癒え、心豊かになるだろう」という三戸隆さんの信念は、三戸さんが亡くなった後も家族や多くの人たちに引き継がれています。

ラッビー友の会
広島国際アニメーションフェスティバル盛り上げボランティア大募集！
ラッビー友の会事務局 いくまさ鉄平 ☎090・9734・93809
電子メール okakawo@bb.ne.jp
氏名住所、電話番号をお知らせください

ラッビー友の会会長
三戸 清司さん



私たち家族にとって、広島国際アニメーションフェスティバルは、いつの間にか父が残してくれた形見のように大切なものとなっています。当初は父を通じての大会という存在でしたが、知れば知るほど、とても貴重なことを手掛けているというところを実感しました。実は、作品上映を観たのは第8回大会の時が初めてで、最初はよく分からなかったというのが正直な感想です。私たちテレビっ子の世代が目にしてきたものは、常に人気が評判を伴っている「アニメ」という商品で、それに対して大会で触れることができる作品は、作家の芸術性や思想が純粋に表現されているものだと思えるようになりました。

アニメーションを楽しむには、少なくとも受け身的に喜ばせてくれるような作品を期待しないことで、さらには作品を味わうための努力を心掛ける必要があります。作家の国や制作までの過程を知り、普段の生活において色や形や音に興味を持ち、鑑賞力を養うことがとても大切なことです。今年、私が勤める広島市立戸坂城山小学校の子どもたちとともに「やさしさ」を伝えようというテーマに作品を作り、大会に出品しました。私は活動を続けることで、子どもたちや教師仲間にもアニメーションの素晴らしさを伝えることができたいと思っています。